

■■メールマガジン「静岡県防災」第68号■■

～ 復旧・復興のために学生ができること ～

ー本号では、危機管理部が委嘱した学生防災ジャーナリストからの内容になりますー

学生防災ジャーナリスト 牧之原支援について

静岡大学生防災ネットワーク 塚本 由喜美

「復旧・復興のために学生ができること」

9月上旬の台風第15号による被害が生じた牧之原市の現地支援として、9月15日（月・祝）に、一般社団法人BOSAI Edulab主催のユース災害ボランティア基金の災害ボランティアに当団体から3名が参加しました。

参加の経緯は、当団体の創設者であり一般社団法人BOSAI Edulabの理事長を務める上田啓瑚さんから当団体にお声がけいただいたことです。私自身や当団体メンバーが「何か力になりたい」「自分たちにできることをしたい」と強く感じている中でお誘いをいただき、交通手段や交通費の心配なく安心して参加できる機会をいただけたことは、学生にとって非常にありがたいことでした。

午前中は、牧之原市ボランティアセンター周辺にて、ボランティア車両の駐車場への誘導・交通整理を行いました。ボランティアセンター内で様々な地区の社会福祉協議会職員が業務をされている様子から他地区・他組織との連携・応援の重要性を感じました。

午後は、牧之原市総合健康福祉センターさざんかの「生活なんでも相談」会場にて、学生カフェの運営をしました。生活再建の相談や罹災証明書等の手続きで来場された方々に対し、飲み物とお菓子の無料配布を行いました。

学生カフェの目的は、来場者に一息つけるほっとできる時間を過ごしてもらうことであるため、明るく笑顔で飲み物をお渡ししたところ、「ありがとう」と笑顔で受け取っていただき、精神的な部分で役に立てたと感じています。

今回感じたのは、学生ができる支援は多くあるということです。駐車場の誘導や学生カフェ運営は、体力や専門的知識がなくても行えます。また、例えば、子どもの遊び相手など若い学生だからこそできる支援もあると思います。今後被災地では、学生カフェや子どもの居場所づくりのような心理的なケアも継続的に必要となります。牧之原市の日でも早い復旧・復興のため、今後も継続的・長期的に支援を続けていきます。